

第一章活用事例

中学校版「心みつめて」
「自分で歩き…」 p.6

中心資料

中学校 読み物資料とその利用 平成三年三月 文部省
「裏庭のできごと」

【主題名】 誠実な生き方

1-③「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。」

【ねらい】 自分の行動に責任をもち、自らを律し誠実に生きようとする態度を育てる。

《ねらいと》の道徳的価値について《中学生の時期は、様々な場面において自分で判断して行動できるようになります。一方で、他人の言動に流されてしまった結果を考えずその場の思いだけで行動してしまったりする場面も見られます。自分の行動には自分で責任をもたなければならないことを自覚させ、善悪を正しく判断して、正直に誠実に生きていこうとする姿勢を身に付けさせることが大切です。》

導入



「これから読む資料に登場する人物について、説明します。」

○資料に登場する三人の人物を紹介して、資料への導入を図る。

○教師が「裏庭のできごと」を範読する。

○登場人物三人のうち、「健二」の心情の変化を中心に考えさせる。



「雄一が先生に深々と頭を下げている姿を見たとき、健二はどのような気持ちだっただろうか。」

○健二の心の中で、本当のことを言うかどうか葛藤が起こっていることを捉えさせる。

○意見発表を通して、都合の悪いことをごまかしてしまおうとする気持ちは誰にでもあることに気付かせる。



「自宅に帰ってから、健二はどのようなことを考えていたのだろうか。」

○雄一や大輔の言動から、健二が何を感じたのかを考えさせる。また、本当のことを言えなかった自分自身を、どのような思いで振り返っているかを考えさせる。

中心発問



「雄一の問いかけに首を横に振ったとき、健二はどのようなことを考えていたのだろうか。」

○自分の行動は自分自身が決めなければならないこと、自分の行動には自分が責任をもたなければならないことを、健二が自覚し実行しようとしていることに気付かせる。

《評価》 健二が、周囲に左右されることなく、自分の行動に責任をもち、誠実に生きようとしていることに気付けたか。

○「心みつめて」p.6 「自分で歩き…」を紹介しながら教師が説話をたどる。



「この時間に気付いたことや考えたことをまとめよう。」

○井上靖の「自分の人生は自分で責任をもって歩いていくしかない」という言葉の意味を、自分に当てはめて捉えさせ、自分に誇りをもって誠実に生きていくことの大切さに気付かせる。

板書例

「裏庭のできごと」

登場人物三人の絵

雄一が先生に深々と頭を下げている姿を見たとき、健二はどのような気持ちだっただろうか。

- ちゃんと本当のことを言わなければいけない。
- 雄一に申し訳ない。
- このまま黙っていれば、叱られずに済む。

自宅に帰ってから、健二はどのようなことを考えていたのだろうか。

- このまま黙っていて、本当にいいのだろうか。
- 本当のことを先生に言ったら、大輔を裏切ることになるのだろうか。
- やはり、本当のことを言わなければいけない。

雄一の問いかけに首を横に振ったとき、健二はどのようなことを考えていたのだろうか。

- 自分の行動には自分が責任をもたなければならない。
- 大輔が何と言おうとダメなものだ。
- 自分の行動は、周りの人間ではなく、自分自身が決めなければならないものだ。

この時間に気付いたことや考えたことをまとめよう。

- 自分の人生は、自分で決めながら歩いていくものなのだ。
- 責任を果たし、自分に正直に生きていくことが大切なのだ。
- 自分を正しい道に進ませるのも、誤った道に進ませるのも、自分なのだ。
- 自分の行動に責任をもつことは、すべての人に求められることなのだ。

「自分で歩き、自分で処理して行かねばならぬものが……」の言葉

《評価》

自分の行動に責任をもつことの大切さに気付き、自らも誠実な生き方を実践していこうとする態度が育ったか。

終末

展開

導入